

第3章 日清・日露の戦争と東アジアの動き

甲賀市立土山中学校 山田鋼平

1 単元を貫く問い

- ・日清・日露戦争、条約改正は日本にどんな影響を与えたのか。

2 育成したい資質・能力

- ・日清・日露戦争、条約改正などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめることができる。
- ・日清・日露戦争に関わる結果や過程などに着目して、事象を相互に関連付けるなどをして、多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。

3 単元の流れ

【第1次】列強の動向とアジア（1時間）

- ・帝国主義諸国がアジアやアフリカを植民地化した目的と支配の状況を理解する。
- ・日本が条約改正をすすめた理由について、国際情勢の変化があたえた影響に着目して考え、表現する。

【第2次】朝鮮をめぐる対立（1時間）

- ・日清戦争について、日本と諸外国の意図を比較して理解する。
- ・日清戦争後の日本国内の政治について、政党の動きを中心に考え、表現する。

【第3次】朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立

（1時間）

- ・日本がロシアとの戦争にふみ切った理由や背景を、日清戦争後の中国の様子と合わせて考え、表現する。
- ・日露戦争の戦いの様子やポーツマス条約の内容について理解する。

【第4次】**本時** 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立

（1時間）

- ・前時の様子を踏まえて、ポーツマス条約に対する国民の反応や県民に関わる状況について、資料を読み解き、表現する。

【第5次】日本の朝鮮支配（1時間）

- ・日本による朝鮮支配の過程と中国の近代化の動きを理解する。
- ・日本の朝鮮支配と中国の近代化を通して、日露戦争後

の東アジアの状況を考え、表現する。

《学習教材》教科書、資料集、ワークシート、『歴史公文書が語る湖国』、タブレット、滋賀県立公文書館所蔵資料

4 本時（4/5時間目）

主題 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立

～日露戦争とポーツマス条約～

《本時の目的》

- ・日露戦争やポーツマス条約、日露戦争に関わる歴史公文書等を利用して、戦争の規模の大きさや国民の反応について、多面的・多角的に考察し、表現できるようになる。

【導入】前時の振り返りを行うことで、本時に関わる基礎・基本の内容を再確認する。

*日露戦争中の日本・ロシア、それぞれが抱えていた国内情勢やポーツマス条約の内容は、本時に大きく関わるので、しっかりおさえる。

《学習課題》

- ・日露戦争は日本にどのような影響があったのか。

【展開1】第4章概説「日清戦争と日露戦争」（記念誌 p.114-115）を読み、両戦争時の滋賀県の様子から、思ったことや考えたことを記入する。

*軍・戦争の動きを中心とする国民への働きかけや、教育的効果を重視していることに着目させるとともに、このことが帝国主義を翼賛する国民教化にもつながっている点をおさえる。

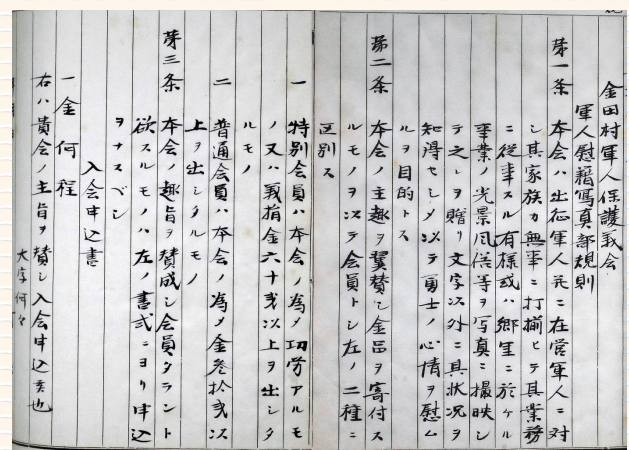
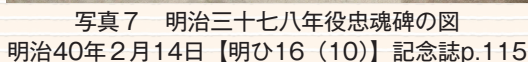


写真6 蒲生郡金田村戦時事績
明治40年6月13日【明ひ15（4）】記念誌p.115



- ・日清・日露戦争の比較
(例) 日本の兵力・戦死者・戦費等
- ・日比谷焼き打ち事件
- ・歴史公文書(写真8-1、8-2等)による県内の状況の
分析など *写真データは該当班に送信する。

写真8-1 労働者需要供給の状況（甲賀郡回答）
明治37年12月1日【明て82（7）】

写真8-2 労働者需要供給の状況（甲賀郡回答）
明治37年12月1日【明て82（7）】

*本時の振り返りとして記入させる。